

「お茶大インデックス」（雇用環境整備指標）を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2016 年度 結果

「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日：2016 年 11 月 22 日（火）～2017 年 1 月 18 日（水）

調査方法：Excel で回答可能な「お茶大インデックス」をメールにて送付し、Plone を用いて評価結果と活用方法についてのアンケート調査を実施。

配布機関：科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業（H18～H22）採択 55 機関、及び女性研究者研究活動支援事業選定（H23～H26）43 機関の計 98 機関

回収数：41 機関（回収率 41.8%）

お茶大インデックス評価結果 41 機関の回答割合と全体的経年変化

41 機関のお茶大インデックス評価結果について、50 項目それぞれに 3 つの選択肢の回答割合を算出した。各項目の回答割合を用いて図 1 を作成した。

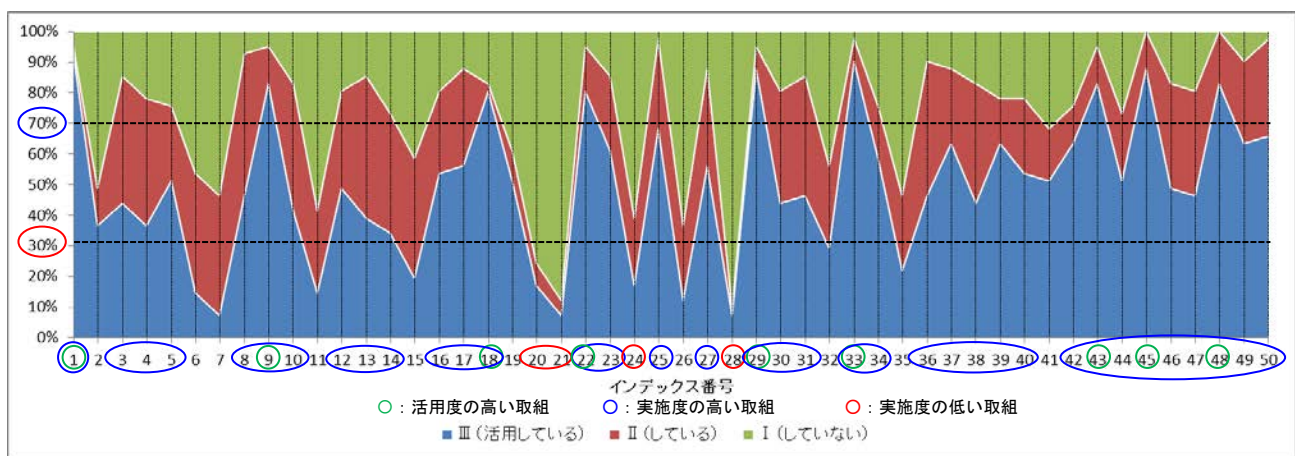


図 1. お茶大インデックス評価結果（全 41 機関、回答割合）

41 機関における活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答が多い項目）、実施度の高い取組（Ⅲ.活用している、Ⅱ.している）、低い取組（Ⅰ.していない）は以下の通り。（カッコはインデックス番号を示す）

活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答割合が 70%以上）

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (33) ホームページによる情報発信 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 |
| (18) 保育施設の設置 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |
| (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 | |

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が 70%以上） ※赤字は昨年度（2015 年度）には認められなかった項目を示す。

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (16) 女性休養室の設置 |
| (3) 公正で透明性の高い公募を行うためのシステムの導入 | (17) 授乳室・多目的トイレの設置 |
| (4) 客観的に業績を評価するシステムの導入 | (18) 保育施設の設置 |
| (5) 女性を積極的に採用するシステムの導入 | (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 |
| (8) 女性研究者における研究分野別・職階別の女性比率の把握 | (23) 育児期における職務軽減制度の導入 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知 |
| (10) 業務を効率化するための取組 | (27) 子育てと研究のための相談窓口の設置 |
| (12) 定時帰宅日の設定 | (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 |
| (13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知 | (30) 女性研究者を支援するためのメンター制度の導入 |
| (14) 実労働時間に関する調査 | (31) 子育て中の女性研究者のキャリアアップ支援 |

(33) ホームページによる情報発信	(43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 (メール・新聞・掲示)
(34) 子育て支援のための冊子作成	(44) 子育て支援に関する勉強会・交流会の開催
(36) 女性研究者を支援するためのロールモデル情報の発信	(45) ハラスメントを防止するための取組
(37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携	(46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発
(38) 女性研究者間のネットワーク構築	(47) 管理職向け両立支援に関する意識啓発
(39) 女子中高校生向け体験授業 (学内・学外) の開催	(48) 男女共同参画に対する意識啓発
(40) 女子中高校生向けロールモデル情報の発信	(49) ダイバーシティを理解するための意識啓発
(42) 女子中高校生向けイベント・シンポジウムの開催	(50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発

実施度の低い取組 (『Ⅰ.していない』の回答割合が70%以上)

(20) 学童保育施設の設置 (他機関との連携も可)	(28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制の導入
(21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備	

「Ⅲ.活用している」(『Ⅲ.活用している』の回答割合が70%以上)の回答が多くみられたのは、インデックス番号 (1)、(9)、(18)、(22)、(29)、(33)、(43)、(45)、(48)、であり、これらは昨年度も回答頻度が高くなった項目である。つまり、「支援組織の設置」、「子育て支援のための予算配分」、「研究補助者の配置」、「他キャンパス・他機関・地域との連携」、「ホームページなどを用いた情報発信」、「男女共同参画やハラスメントにかかわる意識啓発」は実施度が高く、かつ、活用されやすいと言える。

実施度の高い取組 (『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が70%以上) は、昨年度 (2015) も挙げられた35項目に赤字で示す1項目が増加した。多くの機関において、これらの項目は実施率・普及率が高く、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関において雇用環境の整備が順調に進められていることがうかがえる。

一方、実施度の低い取組項目は昨年度と比較して減少したものの、やはり「学童保育」、「宿泊施設の設置」、「奨学金制度の導入」の実施度は低く、経済的支援や設置場所の確保、多額の資金が必要な取組は未だ実施困難であることがわかる。なお、昨年度は実施率が低かった (24) 在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備 (ネット対応、TV 会議等) は「Ⅲ.活用している」と「Ⅱ.している」の回答が増加した。少しずつではあるが、在宅勤務を可能にする環境は整備されつつあることがうかがえる。

上記の結果から、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関では、①支援組織や保育施設を設置し、②研究補助者を配置するとともに、③ホームページを用いて積極的に機関内外に発信し、④ハラスメント防止や男女共同参画意識を高める取組が継続的に実施されていることを把握できた。一方で、経済的支援、設置場所の確保や多くの資金が必要な取組は未だ実施が困難である状況は変化していないことも明るみとなり、他の支援方法を含めて再度検討する必要があると言える。

お茶大インデックス 評価の経年変化

昨年度 (2015 年度) まで、お茶大インデックス評価の経年変化について、継続的に回答いただいた機関についてのみ報告してきた。今年度で7回目 (7年目) の調査となり、前述したように年々雇用環境の整備状況は改善されている様子が見て取れることから、2011 年度から 2016 年度の各年度における回答機関 総合得点平均値の推移とお茶大インデックスを「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の7項目に大分類し、これらの得点平均値が6年間でどのように推移したのかを確認することにした。2011 年度から 2016 年度における総合得点と大分類した7項目それぞれにおける得点割合 (100%は満点) の平均値を算出し、図2を作成した。

総合得点は2011 年度 52.7% (52.7 点) から 2016 年度には 61.8% (61.8 点) となり、年々得点が伸びている (9.1%増) ことが分かる。また、「組織」に関わる取組の実施状況についても、2011 年度の 54.3%から 2016 年度には 60.2%となり、毎年得点が上昇 (5.9%増) する傾向がみられた。その他の項目では、年度によって増減はあるものの、2011 年度から「勤務体制」は 7.3%増、「子育て支援」は 11.6%増、「研究教育支援」は 9.1%増、「情報支援」は 8.1%増、「次世代育成の取組」11.4%増、「意識啓発の取組」においては 12.4%の

大幅増となった。これらの結果から、この6年間で雇用環境を改善する取組は着実に実施され、働きやすい環境が作られつつあると言える。なお、2015年度と比較して2016年度に総合得点が増加したのは21機関、減少したのは14機関、変化なしは4機関、新規回答（これまで回答をしたことがない機関）は2機関であった。

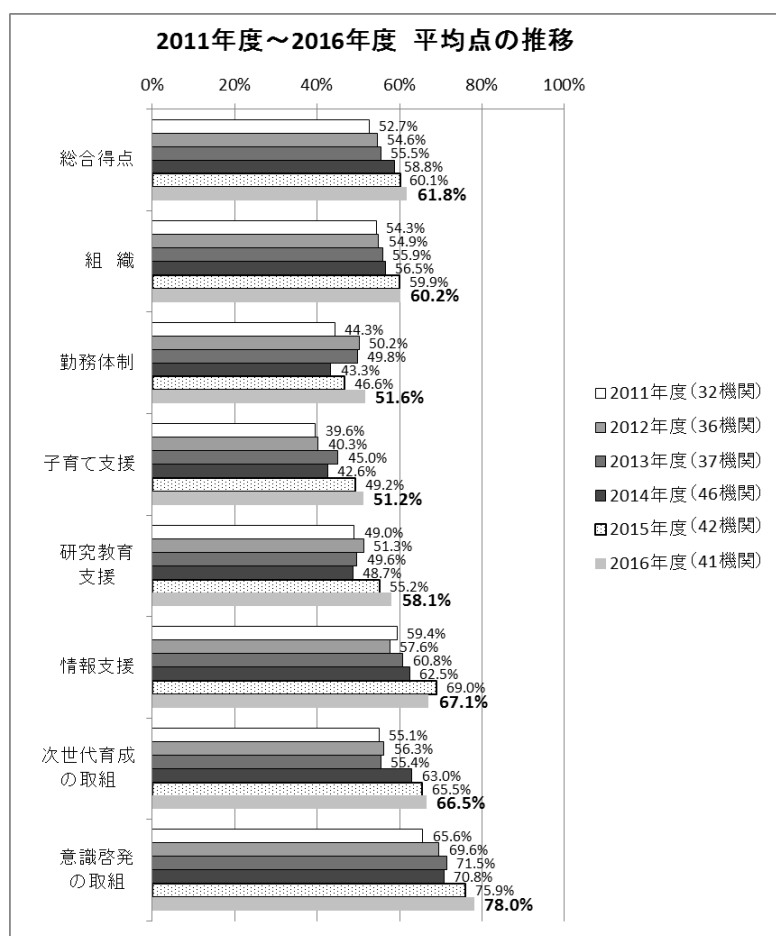


図 2. お茶大インデックス評価（得点割合）の経年変化（全 41 機関、回答割合）

お茶大インデックス評価結果 評価得点上位 10 機関・下位 10 機関の特徴

41 機関のうち、インデックスの評価得点上位 10 機関（平均 77.0 点/100 点中）の回答割合を用いて図 3 を作成し、評価得点下位 10 機関（平均 39.2 点/100 点中）の回答割合を用いて図 4 を作成した。

図 4 から、得点上位 10 機関においてもインデックス番号（20）学童保育施設の設置、（21）子育てを支援するための学内宿泊施設の整備、（28）学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入、の 3 項目は「I. していない」の回答が多い。この結果は 2011 年度から変化しておらず、育児に対する奨学金制度や施設・設備の整備は支援活動が充実している機関においても実施困難であることがわかる。

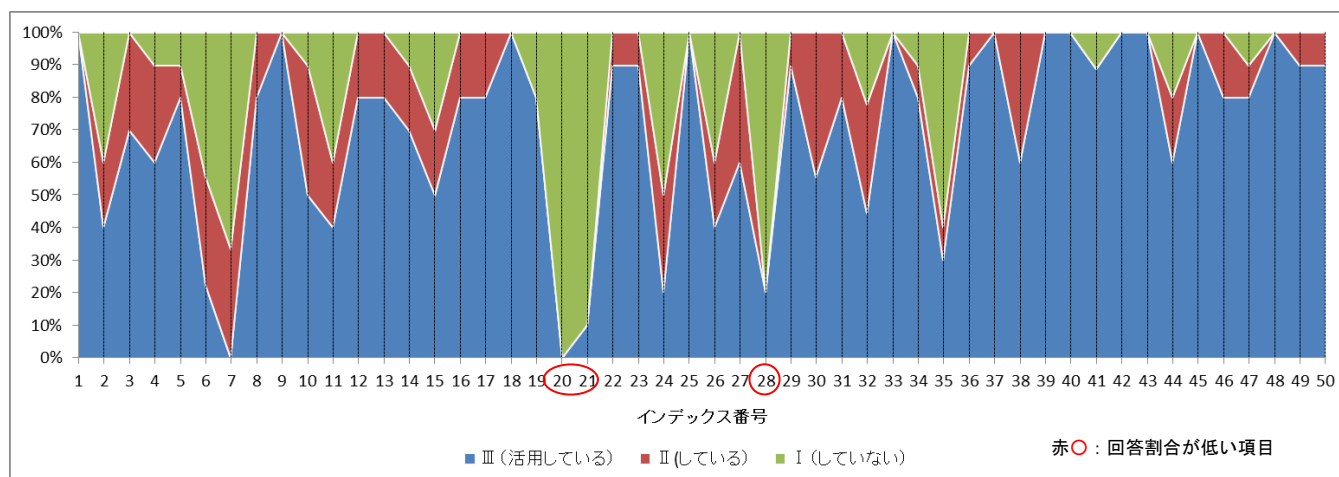


図 3. お茶大インデックス評価結果（得点上位 10 機関）

一方、図4に示す得点下位10機関は、「I.していない」の回答が多いものの、インデックス番号(1)、(3)、(8)、(9)、(17)、(18)、(22)、(23)、(25)、(27)、(29)、(30)、(31)、(33)、(43)、(45)、(48)、(49)、(50)に見られる「女性研究者支援」と「意識啓発」の多くの項目において、「III.活用している」もしくは「II.している」の回答割合が70%以上を示した。中でもインデックス番号(45)ハラスメントを防止するための取組、(48)男女共同参画に対する意識啓発については、「I.していない」の回答が0件であることから、支援活動を十分に実施できない状況においても、これらの取組は導入・実施がしやすいと考えられる。

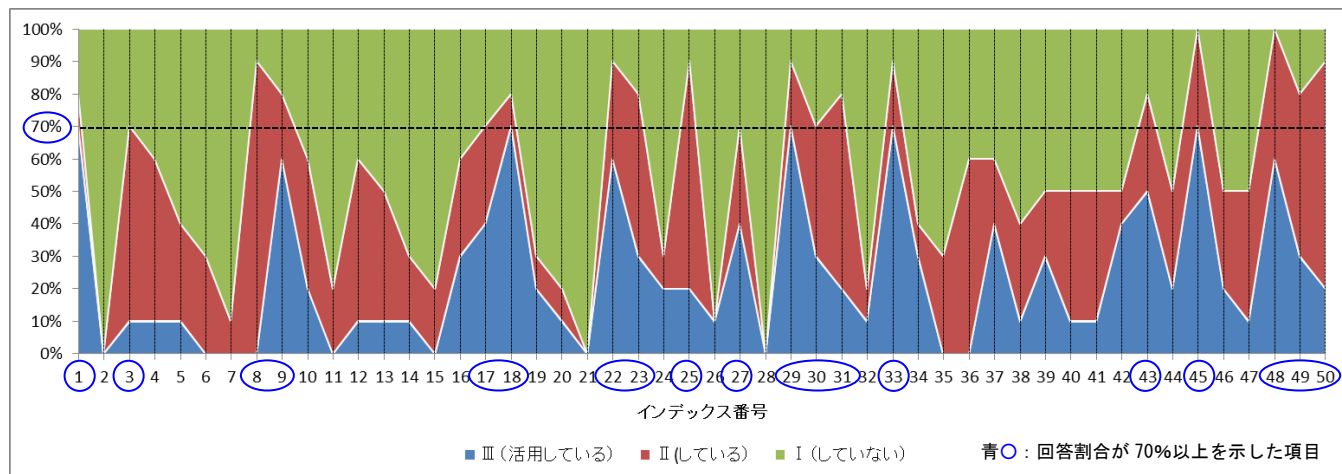


図4. お茶大インデックス評価結果 (得点下位10機関)

お茶大インデックス評価結果 41機関における支援バランスの特徴

お茶大インデックスの「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の7項目の活用バランス、すなわち支援のバランスがどのようなものであるかを明らかにするために、大分類された7項目それぞれに得点割合(100%は満点)の平均値を算出した。結果を図5に示す。7項目のうち「意識啓発の取組」の得点割合が昨年と同様に最も高く、「情報支援」、「次世代育成の取組」と続いている。しかし、「次世代育成の取組」はここ数年の傾向としてバラツキが大きく、実施できている機関とできていない機関に差がみられた。そこで、2016年度も41機関それぞれに算出した7項目の支援バランス(得点割合)を用いてクラスター分析(類似性の高いものをグルーピングする方法)による解析を行った。

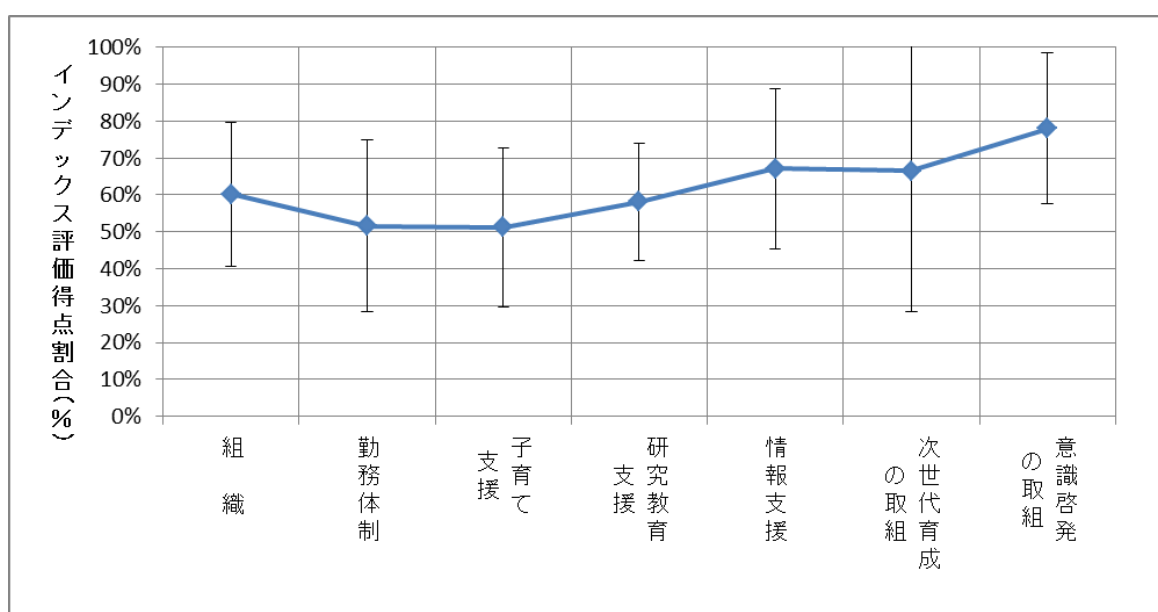


図5. お茶大インデックス 支援バランス (41機関における評価得点割合の平均値)

その結果、図 6 に示す通り、支援バランスの特徴により 41 機関を 5 グループに分類することができた。

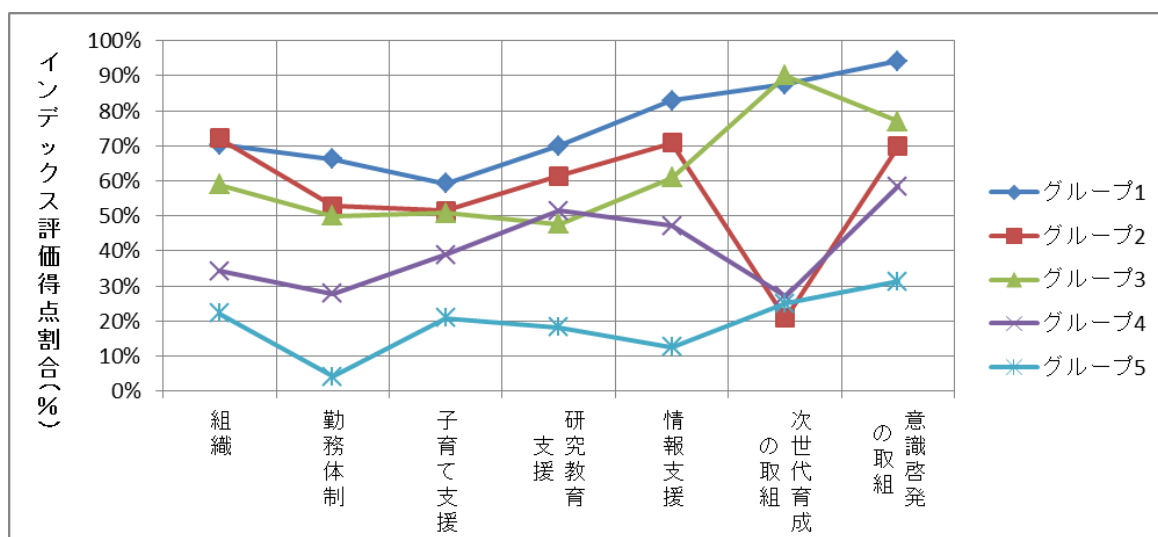


図 6 お茶大インデックス評価 41 機関における支援バランスの特徴

各グループを構成する機関の特徴は次に示す通りである。

【グループ 1】 全体的に支援が行き届いている機関（17 機関）

「子育て支援」以外の項目すべてにおいて得点割合が特に高い特徴を有するグループである。中でも「意識啓発」の取組実施率が 90%以上と非常に高く、総合得点平均値も 75.1 点と非常に高い。上位 10 機関を含んでおり、17 機関中 15 機関が国公立の大学である。お茶の水女子大学もこのグループに属している。

【グループ 2】 「次世代育成」以外に力を入れている機関（6 機関）

支援バランス 7 項目のうち、「次世代育成」の得点が 5 グループの中で最も低い特徴を有するグループである。総合得点は 60.3 点であった。うち 2 機関は国立大学であるが、その他は独立行政法人、私立大学で構成されている。

【グループ 3】 「次世代育成」、「意識啓発」に力を入れている機関（10 機関）

7 項目の支援バランスの中でも「次世代育成」、「意識啓発」の得点が特に高い特徴を有するグループである。総合得点はグループ 2 とほぼ同じ 60.0 点であった。主として工学系大学や地方大学で構成されている。

【グループ 4】 特に「意識啓発」に力を入れている機関（6 機関）

支援バランス 7 項目の中でも「意識啓発」の得点が高くなる特徴を有するグループである。支援バランスはグループ 2 に類似しているが、全体的に得点は低い。総合得点は平均点よりも低い 42.7 点であった。地方の国公立大学が 2/3 を占め、その他は独立行政法人、私立大学で構成されている。

【グループ 5】 支援活動が停滞している機関（2 機関）

他のグループの中でも総合得点は 19.5 点と最も低く、特に「勤務体制」の取組が低い特徴を有する。採択されてから長期間経過しているものの、総合得点が低いことから支援活動が停滞している機関と言える。

41 機関におけるお茶大インデックス評価結果 まとめ

女性研究者支援事業が開始されて 10 年以上が経過し、お茶大インデックスを用いた全国の教育研究機関の雇用環境評価も 7 回目となった。経年変化の分析では、初回調査時と比較して評価得点は年々増加傾向にあることが明らかになった。さらに、7 項目の支援バランスをもとに、41 機関を 5 グループに分類し、支援活動が停滞している機関の数も減少（2015 年度：4 機関 ⇒ 2016 年度：2 機関）していることが明らかとなった。本調査を今後も継続的に実施し、データの蓄積及び分析結果の積極的活用・発信を行う予定である。

お茶の水女子大学における お茶大インデックス評価結果

お茶の水女子大学は、女性研究者支援モデル育成事業（2006 年度～2008 年度）を経て、2009 年度より本学独自の事業として雇用環境の整備と研究者支援を継続・発展させてきた。また、2014 年度には、本学と芝浦工業大学、物質・材料研究機構の 3 機関が女性研究者研究活動支援事業（連携型）に共同申請し、採択されている。本学における 2011 年度の総合評価得点は 62 点、2012 年度は 68 点、2013 年度は 70 点、2014 年度と 2015 年度は 72 点、2016 年度は 75 点となった。得点が増加した項目は以下の通りである。

(11) 会議に関する規則の設定 (5 時以降に会議時間を予定しない・延長しない)

※「Ⅱ.している」から「Ⅲ.実施されている」に変更。主として多くの教員が参加する会議は原則 5 時までとしており、そのように会議が実施されている。

(25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知

※「Ⅱ.している」から「Ⅲ.実施されている」に変更。本学ホームページにて周知しており、着実に実行している。

(33) ホームページによる情報発信

※「Ⅱ.している」から「Ⅲ.実施されている」に変更。当事業を担当するグローバルリーダーシップ研究所のホームページをリニューアルし、より活用されやすい工夫を図った。

【付録】 お茶大インデックス評価結果 総合得点一覧

お茶大インデックスの評価結果（表 1）を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は 61.8 点（昨年度より 1.7 点増）、最高点は 80 点、最低点は 17 点であった。

表 1. お茶大インデックス 評価結果 (総合得点降順)

ID	総合得点	「お茶大インデックス」得点						
		1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組 織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援	次世代育成の取組	意識啓発の取組
最高点	100	18	12	12	22	12	8	16
017	80	16	12	6	16	10	4	16
055	80	16	7	8	13	12	8	16
052	78	16	6	8	15	11	6	16
060	78	13	7	8	19	9	8	14
070	78	12	8	8	17	9	8	16
002	76	12	11	6	15	9	8	15
006	76	10	10	7	18	9	8	14
お茶の水女子大学	75	14	9	7	14	11	8	12
025	75	11	8	8	15	11	8	14
030	74	9	10	8	17	8	8	14
035	74	12	10	7	16	8	5	16
074	74	14	5	8	14	9	8	16
016	73	13	7	5	16	10	6	16
045	73	10	5	7	15	12	8	16
012	72	9	8	10	12	9	8	16
019	72	15	6	6	13	10	7	15
040	72	14	8	7	12	9	8	14
042	69	8	6	7	17	12	3	16
033	67	11	7	9	13	8	8	11
062	66	15	4	3	15	10	6	13
067	64	11	9	9	10	7	5	13
068	64	12	7	7	14	10	3	11
069	64	13	7	5	14	11	1	13
036	63	11	8	4	13	8	8	11
004	62	9	6	6	13	7	8	13
043	62	16	4	12	14	5	0	11
061	60	10	5	6	9	6	8	16
066	58	13	5	4	9	9	7	11
051	57	15	4	3	8	9	8	10
003	53	11	8	0	15	8	0	11
005	53	11	8	10	9	7	0	8
039	51	6	6	6	14	6	0	13
057	51	12	4	6	11	4	6	8
063	46	5	4	4	7	6	6	14
022	45	7	1	8	12	6	0	11
037	41	7	3	4	10	7	0	10
064	41	5	3	6	10	4	6	7
014	39	7	1	2	12	6	5	6
075	39	5	6	2	10	5	2	9
007	22	4	0	5	5	2	0	6
059	17	4	1	0	3	1	4	4

謝辞：本調査を実施するにあたり、全国の多くの教育研究機関の皆様にご協力を賜りました。
心より感謝の意を表します。